

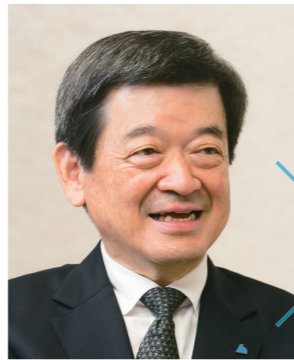


対談

公益財団法人全国法人会総連合
http://www.zenkokuhojinkai.or.jp/



公益財団法人全国法人会総連合
会長 **小林 栄三**
Eizo Kobayashi



Miki Shiraishi
タレント **白石みき**



1949年福井県生まれ。大阪大学基礎工学部物性物理工学科卒業後、1972年に伊藤忠商事株式会社入社。海外勤務を経て情報産業ビジネス部長などを歴任。2004年同社取締役社長、2010年会長に就任。2015年全法連副会長に就任、2017年6月から会長を務めている。

1982年東京都生まれ。3歳でモデルとしてデビュー。以来、ファッション誌や広告、CMなどで幅広く活躍。フレッシュな笑顔と明るいキャラクターで、クイズ番組やバラエティなどにも多数出演。現在は「賢者の選択」「世界ふしぎ発見!」「カイモノラボ」などにレギュラー出演中。

異業種経営者とのコミュニケーションを推進 小林新会長に聞く法人会の新たな取り組み

中小企業を中心に全国約80万社が加入する経営者団体「法人会」。税のオピニオンリーダーとして、どのような取り組みを推進しているのでしょうか。今年6月、公益財団法人 全国法人会総連合(全法連)の新会長に就任した小林栄三氏に「賢者の選択」番組ナビゲーターの白石みきさんが聞きました。

白石 まず法人会について教えてください。どのような組織なのですか。

小林 法人会は戦後すぐの1946年に誕生した経営者の団体です。現在は全国で約80万社の企業が加入しています。各地域には41県連、440の法人会があり、全国の組織を束ねているのが全法連です。70年の歴史を持ち、申告納税制度の定着に向けて適正な納税の推進、税の提言活動などを行ってきました。また、会員数のスケールメリットを活かして、地域の振興に寄与する社会貢献なども積極的に進めています。

白石 具体的にどのような活動をされているのでしょうか。

小林 加入している80万社にはいろいろな業種の会社があります。そこで、幅広い

業界の経営者との異業種交流を推進しています。もちろん、法人会の原点である税を切り口としたさまざまな事業も展開しています。さらに今後はさまざまな見地から議論を重ねてイノベーションを起こすきっかけの場として機能させていけたらと考えています。

白石 法人会に加入することで、経営者の方にはどのようなメリットがあるのでしょうか。

小林 どのような社会でも企業であっても、人間が一人ではあることには限界があります。そこで大切なのがネットワークを持つことです。1+1、1+2と集まることで可能性も大きく広げることができます。

白石 コミュニティがあることで、いろいろな視点から見る事ができますね。税に

関しても、分かっているようで実は知識が不足しているということもあります。

小林 そうですね。税務署や税理士などのコミュニケーションを深め、法人納税者として正しい税の知識を持つことは、企業経営そのものやガバナンスにも密接に関わります。更に、企業とはどうあるべきかを習得できますから、とくに若い経営者の方には実践的な場として活かしていただいています。

白石 今年の6月に新会長に就任されたそうですね。その経緯や就任の感想を教えてください。

小林 2年ほど前に前会長からお誘いを受けたことがきっかけです。私自身は伊藤忠商事の会長となり、より社会貢献を果たしていきたいと考えて、全法連の副会長を

務め、今回会長に就任しました。法人会は他の経済団体に比べ、知名度や社会への浸透度は必ずしも高くありませんが、実際は地道にしっかりと毎日の経営を進めるための情報を提供しています。派手さはありませんが、日本の企業や社会の発展に大きく寄与していると考えています。

白石 どういった思いで新会長としての役割を果たしていきたいとお考えですか。

小林 日本が抱える大きな社会問題はやはり人口減少です。とくに少子高齢化が進むなか、地方や企業の活性化などの課題があります。こうした課題に向けて逃げることなく、真正面からぶつかって光を見いだしていくことを会員の皆様とともに取り組んでいきたいと考えています。社会構造の変化を受けて、日本では企業数そのものが減少しています。これに伴い、法人会の会員数も減っています。これを食い止めて、好転させるためには、とくに新しく設立した企業の方に加入していただき、そして既存の企業の方にも明らかなメリットを感じていただけるような組織にしたいと考えています。さまざまな会合などでFace to Faceで対話しながら、その方向性を探って行きたいですね。また、法人会としても、税制について国にさまざまな提言をしていきたいと考えています。

白石 小林会長は現在の税制や税のあり方をどのように捉えていらっしゃいますか。

小林 税は経済や社会を活性化させるために必要なものです。その施策をどのように進めるのかに加え、法人税や消費税のあり方を考えていただかなければなりません。とくに、国の発展を支えるためにも経済の成長が必要です。グローバルな視点から見ると、法人税のあり方については、世界的な議論が求められているとも言えます。

白石 小林会長は企業経営でどのようなことを大切に考えているのでしょうか。

小林 座右の銘に掲げているのは「一期一会」です。人間は一生のうち何人の人と出会えると思いますか。私は比較的多くの方とお会いしてきたと思いますが、それでも1日に5人とすると、ひと月100人、1年で1,200人、40年でも5万人です。世界に74億人もいるのに、実際にはこれだけしか会

うことはできないのです。そう考えると、人と出会う機会は大事ですし、出会った方との関係を保つことも大切です。

白石 出会う場に積極的に赴くことが必要ですね。

小林 どのような方にお会いしても、必ず勉強できる面があるものです。多くの方と会うことで得られることも増えます。世の中はやはり人です。先生や両親、同僚や友人、後輩といった人との関係で成り立っているものです。誰でも一度は会ってもらえるものですが、何度も会ってもらうためには、まず自分が勉強することです。相手にとって、会う価値のある人間にならなければいけません。お互いに価値を見出すことが大切です。

白石 全国の経営者の方に向けてメッセージをお願いします。

小林 企業経営に大切なのは「三方よし」という考えです。これは売り手よし、買い手よし、世間よしという近江商人に伝わる

経営哲学です。企業市民という言葉もあるように、すべての企業はどのように社会を意識するかが大事なのです。もちろん、企業そのものが発展しなければ、社会に貢献できないかもしれません。それでも常に社会を意識して、地域の発展や結果として国の繁栄を考えるのが経営者の真の姿です。時代や社会は大きく変化を続けています。変化の振れ幅も大きくなり、情報伝達手段の発展によってそれが世界中のあらゆる業種にスピーディーに伝わってきます。そこで大切になるのは異業種を含めたネットワークです。自分と違った価値観を持つ異業種の考え方を総動員し、いろいろな知恵を授かって企業の発展を目指して欲しいと思います。技術や商品、ビジネスモデルなどイノベーションは人から生まれるのです。こうした意味でも法人会を交流を図るための場所として活用していただければ、法人会もさらに大きく発展するものと思います。



法人会の動画は賢者の選択 ビジネスLABのウェブで公開中!

ビジネス情報番組
賢者の選択
Le del's

一人の思いが世界を変える。
http://kenja.jp/lab/
賢者の選択